

## みどりの食料システム戦略 (概要)

### 現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

「Farm to Fork戦略」(20.5)  
2030年までに化学農薬の使用  
用及びリスクを50%減、有機  
農薬を25%に拡大



「農業イノベーションアジェンダ」  
(20.2)

2050年までに農業生産量  
40%増加と環境フットプリント  
半減



**農林水産業や地域の将来も  
見据えた持続可能な  
食料システムの構築が急務**

### 経済

#### 持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換 (肥料・飼料・原料調達)
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

### 社会

#### 国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

### 環境

#### 将来にわたり安心して 喜ばせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切り替えによるカーボニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画 (国連食料システムサミット (2021年9月) など)

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

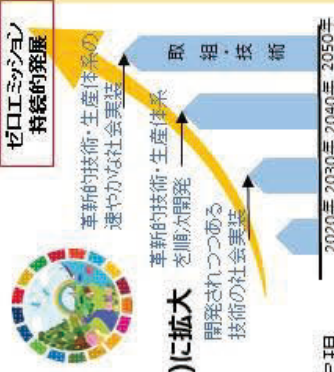
### 目指す姿と取組方向

#### 2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロミッションの実現
- 低リスク農薬への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量 (リスク換算) を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンナギ、クロマゴロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

#### 戦略的な取組方向

- 2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発 (技術開発目標)
- 2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現 (社会実装目標)
- ※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者へ集中。2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボニュートラルに対応することを旨とする。
- ※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要は規制を見直し、地域地消費型エネルギーシステムの構築に向けて必要は規制を見直し。



# みどりの食料システム（具体的な取組）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

